

押し付け連鎖断て

名護

辺野古で 元官僚ら抑止力で指摘
討論会

日米外交の政策提言を行「ニシアタイプ（東京）のシンクタンク、新外交イノベーション」シンポジウム「普天間基地返



普天間飛行場の移設問題などで議論を交わす登壇者＝10日夜、名護市民会館

還と辺野古移設を改めて考
える」が10日夜、名護市民
会館で開かれた。

防衛省出身で元内閣官房
副長官補の柳沢協二氏は、
軍事的に台頭する中国に対
し、在日米軍を「抑止力」
とする議論について「ラッ
ッシュ時に人々が一斉に同じ
方向に進むような摩擦はあ
るが、お互い相手を滅ぼさ
なければ生存できないとい
う脅威はない」と表現。
「単純に米軍がいれば抑止
力だという物語はもはや成
り立っていない」と述べ
た。

その上で抑止力としての
海兵隊の役割を疑問視し、
普天間飛行場の県外移設に
ついて「（可能とする）軍

事的条件はある。県民の利
益のために実現するのが政
治の役割だ」と述べた。

普天間ではなく、名護市
辺野古に基地を置くという
発想に関しては「思考の構
造は（復帰前に）本土で反
基地闘争が激しくなり、沖
縄に基地が集約されたのと
同じ。抵抗が少ない所に問
題を押し付けるサイクルを
やめない限り、沖縄は基地
の中で暮らしていかなけれ
ばならない矛盾から抜け出

せない」と述べた。

前泊博盛沖縄大教授は
「全国同じように地方交付
税や国庫支出金がある。当
たり前にもらえるお金であ
り、なぜ沖縄だけ基地と引
き換えにしかもらえないと
され、どう喝されないと
いけないのか」と指摘した。
ジョージ・ワシントン大
のマイク・モチツキ教授は
海兵隊の戦略に関して「長
期的にはほとんどがグア
ム、ハワイ、米本土に配備
される。沖縄に本格的な恒
久基地を置く必要はない」
と指摘した。